

## ◆ 平成30年度 活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 いろいろ生きものネット埼玉

21A-21

代表者：代表理事 脇坂純一

URL : <https://sites.google.com/site/saitamainenet/>

### 1. 活動が必要とされた状況

- ① 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動：狭山丘陵の保全活動は、継続的な取組が必要。原市沼川のオオフサモは、モニタリング活動が必要。
- ② 生物多様性保全の普及啓発活動：住民の理解と活動を促すためには、効果的な広報などが求められる。
- ③ 県内 A 社の自然環境調査の受託：団体の経験値と事業規模の拡大を図るため。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

#### ①狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動



・里山保全活動は、「奇数月の最終日曜日に実施」というルールを作り、年6回（雨と雪で2回中止）下草刈り、台風による枯損木の伐採などを実施した。（参加者3～10人）

・原市沼川の特定外来生物オオフサモの除去活動は、様子を継続的にモニタリングした。

#### ②生物多様性保全の普及啓発活動

・イオンレイクタウン店で開催された「ACT Green ECOWEEK 2018」に参加した。（来訪者600人 H30/10/19～21）

・「シカ・イノシシなど野生動物の現状を考える」をテーマに第5回生きものフォーラムを開催した。わかりにくい奥山の現場の様子などを周知できた。（参加者53人 H31/2/23）



#### ③自然環境調査の受託

・ビオトープを目指す工場敷地に生息する動植物の調査を会員（7人）により（一部外部の応援を得て）実施した。



### 3. 活動の成果

- ・台風で多くの倒木が出た緑の森博物館の当団体管理地（0.9ha）の里山整備ができた。
- ・ECOWEEK 2018では、希少種コアジサシの模型である「パタパタコアジサシ」を子供たちに作ってもらうなど、コアジサシ保全のPRができた。
- ・フォーラムでは、シカなどに関わりのある行政、環境団体、研究者など53人の参加を得て深刻な現状と対策の必要性が広報でき、関係者と交流も図れた。
- ・受託調査は団体の活動の幅が広がった。事業所の取組にNPO団体として貢献できた。

### 4. 今後に残された課題

- ・オオフサモ除去活動は、原市沼川のモニタリングを継続し根絶すること。
- ・里山保全活動は楽しいものとし、新人も勧誘すること。また、参加者が里山保全活動の全体像を十分に理解、体験、伝播できるようになること。
- ・多角的な情報発信役をするための自らの活動の強化（対象の拡大、実践・研究・モニタリングの深化、活動分野の多角化など）を図っていくこと。また、会員のマンパワーがあまり大きくないので、事業の分担と効率的な推進にも留意すること。